

(写真・文 太田祥作)

ノジコ (学名: *Emberiza sulphurata*)

【スズメ目ホオジロ科】



◀ ノジコのさえずり (只見町ブナセンターHP「只見の野鳥 鳴き声図鑑」)



▲ 雄成鳥。5月、布沢地区にて撮影

▲ 10月、檜戸地区にて撮影

ノジコは開けた森林に見られる夏鳥で、ホオジロに似た美しい声でさえずります。黄色い腹や白いアイリングが特徴です。只見町では5月から10月にかけて、塩沢や叶津、布沢、梁取など各所で見られます。湿地や河川周辺の林に多い傾向があります。

渡り鳥であるノジコは、主にフィリピン北部や中国南部、台湾などで冬を越し、初夏に繁殖のため日本へと渡ってきます。同様の渡りをするツバメなどは日本だけでなく、北半球の広い範囲で繁殖することが知られています。ところが、ノジコが繁殖するのは日本だけであることから、世界的にも珍しい種とされています。さらに、国内の主な繁殖地は、東北から中部地方までの本州日本海側に限られています。福島県では、吾妻山系より西の会津地方に広く分布する一方、中・浜通りではほぼ見られません。

ノジコの生息環境に関する研究では、年平均気温10℃以下、積雪50cm以上の地域がノジコの繁殖に重要であることが明らかになっています。ノジコの特徴的な分布には、本州日本海側に特有の多雪環境が関係しているようです。雪崩・地すべり斜面に成立する低木林が巣をつくるために必要なヤブとなり、さらに豊富な雪どけ水が湿地を形成することで、ノジコの繁殖に必要な環境条件が成立している訳です。

近年は温暖化により、只見町でも雪の降る量が減っています。ノジコは雪の多い地域を好むだけに、雪の減少が環境の変化につながるおそれがあり、今後の生息数の減少が心配されています。

〈参考〉

出口翔大(2017)生態図鑑 ノジコ。バードリサーチニュース, 14(6):1-2.

Deguchi, S., Ishihara, Y., & Miguchi, H.(2017). Habitat preferences of breeding Yellow Buntings *Emberiza sulphurata* in hilly rural areas following rice field abandonment in northern Japan. Bird Conservation International, 27:550-559.

Deguchi S, Ueda Y, Hisano M(2022) Temperature and snow depth explain the breeding distribution pattern of Yellow Bunting *Emberiza sulphurata*. Ornithological Science, 21(2):133-143.

只見町ブナセンターからのお知らせ

下記イベントを開催しております。詳細は只見町ブナセンター(電話0241-72-8355)までお問い合わせください。

企画展「誕生から10年。只見ユネスコエコパークのこままでを振り返り、これからを考える」

会期：2024年4月27日(土)～9月1日(日)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム

2階ギャラリー